

献 辞

近藤暹教授は、平成14年3月31日定年を迎えられた。広島修道大学経済科学部教授会は教授のこれまでの本学への貢献に対して心から感謝の気持を表し、ここに退官記念号を刊行する運びとなった。幸いにして本号では13編もの論文の寄稿を得て充実した内容とすることができた。

近藤教授は、昭和30年3月、大阪市立大学理工学部電子工学科を卒業、2年間の同大学研究員としての期間を経て、昭和32年株式会社日立製作所戸塚工場に勤務された。昭和38年からは同中央研究所に移られ、以後、同コンピュータ事業本部、ソフトウェア工場、本社情報システム本部勤務を経た後、昭和63年4月に本学商学部管理科学科教授として着任された。平成9年4月には学部増により本学経済科学部に配置換えとなり、情報システム論やヒューマン・インターフェースなどの科目を担当された。一方、その間、昭和51年9月には京都大学より工学博士の学位を授与され、また平成6年2月には東邦大学より博士（医学）の学位を授与された。電子情報通信学会、日本心理学会、日本音響学会、日本生産管理学会ほか多数の学会の会員であり、教授の研究交流面の幅広さが伺える。

教授の研究分野は、音と行動の科学、コンピュータ・グラフィックス、情報ネットワークなど多岐にわたる。数量化理論の国際的権威である林知己夫教授との共同研究に基づく、音の品質、航空機騒音の解析とうるささの数量化、複合音の評価と予測に関する研究は日米の学会でも高く評価されている。また、近年はDVT作業による疲労の分析に関して音響的方法に着目し鋭意研究され、これが結果として教授の2つ目の学位（医学）として結実したようである。

教授のユニークな点は地道な基礎研究のみに留まらないところであろう。平成3年にはエッセイ「聖書と音」を出版され（聖文舎刊）、現代と古代の音と人のかかわりについて新たな知見を披瀝された。特に世界最古の書である旧約聖書や新約聖書を詳しく研究されており、特にそこに出てくる音に関する記述に注目、それらにまつわる様々な出来事について教授独特の切り口によって、音から見た

独自の文化文明論を展開されている。

教授は教育にも情熱を注がれ、教授の研究室は商学部管理科学科、経済科学部経済情報学科を通じて人気講座の一つで、いつも沢山の学生であふれていた様子を思い出す。本学を去られた後もしばらくは非常勤講師として授業の担当をお願いしている。

今後もさらなるご健康とますます自由で楽しい第三の人生を送られることを祈念する次第である。

2002年 6 月

経済科学部長

廣 光 清次郎